

*退いた教皇



2月11日、ローマで教皇ベネディクト16世(85歳)は、2月28日をもって教皇として退くことを表明しました。カトリック教会のみならず、世界中で多くの人々はこの予想外、思いがけないハプニングに對してびっくり仰天しました。当然のようにその決断に対する反応は様々です。—このニュースを聞いた時に私も驚きましたが、さほど動揺はしませんでした。なぜなら、このような歴史的な決断を下す

ことのできる方がいるとすれば、それはベネディクト16世であるとなんとも思っていたからです。教皇の大胆な決断、その背景にある冷静な判断、行動に移る勇氣、そしてそれを支えた謙虚さを賞賛しながら、ベネディクト16世に心から感謝の意を表したいと思います。

＝●世界にとっても、教会にとっても厳しい時代

●人気があるアイドルが求められ、世論がいと簡単に操作される時代

●インターネットを通して責任の伴わない出所不明の情報が飛び交う時代

に、理性を活かし、確かな知識に基づいて、ニュアンスをもって真実を聞かせることは、至難の業です。



—優れた教養に富み、賢いために鋭く問題を指摘する人がいれば、「無知」の人にとってその人は許しがたい存在です。

その人は流行している意見や生き方、その流れに逆らおうとすれば、なおさら風当たりが強くいつの間にかその人は嘲りの的とされ、容赦のない批判を浴びせられてしまします。

＝長年、ベネディクト 16 世の言葉や行動に対する一部のメディアによるバッシングとも言える扱いを見て、度々思いました。「汚れた古い壁が汚い汗をかくように、そういう報道を通して無知、先入観、偏見、恨み、敵対心などがあふれるほどこぼれているな」と。ここで別に教皇を弁明する気は毛頭ありません。ベネディクト 16 世に対する評価は人によって違うでしょう。

ただ、この数年もの間、身に染みたことが一つあります。それは、一部を省略することによって、どれだけ情報が歪曲されるか、「はさみとのり」の世話になった報道によって、どれほど人は誘導され、結果的にだまされているかということです。

とくめい、ふじょう、みだ、とお、つく、あ匿名で浮上し、見出しを通して作り上げられたイメージは、瞬時に全世界に広がり、人の頭にインプットされ、疑う余地のない真実に変わってしまいます。

＊ベネディクト 16 世に対するこのような報道は、教会の中にまで影響を及ぼしたことを否定することができません。—それに対して、穏やかに、謙虚に、品位をもって振る舞った教皇ベネディクト 16 世に敬意を表したい。

—そして教皇が書き残した文章を読むようにお勧めします。その文章を好意的に読もうとすれば、その中で、人の道、自分の道を照らす光が輝いていることにきっと気づくでしょう。



＊新しい教皇を迎えるに当たって

「灰の式」をもって、2月13日から四旬節に入ったわたしたちは、3月のうちに聖週間を迎え、31日にイエスのご復活を祝います。日にちのずれを別にして、毎年のことですがしかし、今年の3月の彩は違います。—新しい教皇が誕生する予定だからです。

わたしたちはその教皇を選ぶことができますませんが、新しい教皇を待っている任務の重みを想像することができます。教皇を選ばう責任を負っている方々が人間の感情、考え方の違いを乗り越えて良心と信仰に基づいて素直に聖霊の導きに身を任せることができるように共に祈りたいと思います。—21世紀の人類と教会のために、相応しい方が選ばれることを心から願って。